



まちの話題

特集

西原町花木 サワフジ ~花言葉は「幸運が訪れる」~



梅雨があげ、町花木のサワフジが見ごろの季節になりました。町内のいたるところで、サワフジが開花しています。花の見ごろは6月から8月ごろで、夕方から夜にかけて白色や淡いピンク色の花が咲き、明け方には散ってしまいます。夜空に浮かぶ花火みたいで不思議な魅力がある花です。

サワフジは沖縄県内で広く呼ばれている名前が「藤のように下向きに垂れ下がる花を咲かせる」ことが由来です。全国的には「さがりばな」と呼ばれていて、西原町内では鳩目銭(琉球王国時代に使われていた穴の開いているお金)をぶら下げているように見えることから、「銭掛け木」と呼ぶ地域もあります。

※サワフジを見に行く際は、近隣住民に迷惑がからないようご配慮をお願いします。
※懐中電灯をお持ちください。

おすすめサワフジスポット 詳しくはHPで



綱引き (チナヒチ)

綱引きは、五穀豊穡、害虫駆除、ヒーゲーション(火返し)を祈願する神事で、集落最大の年中行事であり、旧暦の六月二十五日もしくはその後の日曜日に町内十カ字で行われておりますが、今回は、小波津の綱引きについて紹介します。

小波津は古い集落で、由緒ある伝統行事が残っており、かつてはクファチターブックワと呼ばれる稲作地帯で、西原口説にも「ターブックワ(たんぼ)前なちよる小波津村」と歌われています。このような土地柄から、稲作に由来する伝統行事として豊作を祈願する綱引きが戦前から行われていました。

近年は、稲の収穫に感謝する六月ウマチー(旧暦六月十五日)とウファチ(旧暦六月二十五日)の頃に、五穀豊穡と子孫繁栄を願ってウマチー綱(子ども主体の綱引き)とウファチ綱(大人主体の綱引き)が行われています。以前の綱造りは、住民が作った稲のわらを集めて綱を造っていましたが、やがて稲作が衰えサトウキビ作が普及すると萱(かや)で代用するようになりました。

現在は金武町伊芸区の農家から稲わらを購入し、綱を造っています。綱引きは、綱を引く前にニシ(北)とミージマ(新島)に分れ、旗頭やハジリ棒(三尺棒と六尺棒を持った組手)で士気を高揚した後、綱を2回引きます。最初にニシが勝てば五穀豊穡、ミージマが勝てば地域や子孫が繁栄すると

言われています。士気を高める旗頭は、戦前のものは戦争で焼失したため、戦後、一九六八年(昭和四三年)に小波津在住の大城亀松氏から二基の旗頭が寄贈されました。二〇〇〇年(平成十二年)には、旗頭の太鼓部分をアルミで加工して旗も新調し、手直ししながら近年まで使用していましたが、旗と竿の損傷が激しかったため、令和元年に大人用と子ども用の旗頭四基を新調しています。戦前の綱引きでは、婦人たちの気持ちも高まり(チムドンドン)、負けそうになると立ち見している参観者に綱を引くようにティービー(松明)で煽ったりしたために、ティービーの火の粉でやけどをする人も多かったことや、綱引きに2回とも負けた方が、その腹いせで喧嘩を仕掛けることがあったことから、綱引きの勝負は、最初に勝ったから2回目は負けるルールを決め喧嘩はなくなつたそうです。

勝負にこだわる小波津の綱引きは、戦後も引き継がれ、ハジリ棒や旗頭の勇ましい演舞で士気高揚と勝ったときの喜びを表現しており、年に一度、小波津の住民がもつとも熱くなる



西原劇場



雄綱と雌綱を6尺棒で支える



西原さわふじマルシェ

伝統行事になっています。皆さんも各地域の綱引きに参加して「チムドンドン」してはいかかでしょう。ちなみに、小波津に立地する「西原さわふじマルシェ」の建物外観は、綱引きをモチーフにしており、施設内の西原劇場には、小波津の綱と旗頭が展示されています。綱引きは幸せを引き寄せ、家庭円満、子孫繁栄、無病息災のご利益があるといわれていますので、是非お立ち寄りください。

6月1日水 第64回水道週間スローガン 「大切な水と一緒に暮らす日々」

6月1日から全国一斉に行われる水道週間に合わせて、町と町管工事協同組合(島袋敏理事長)による節水パレードが行われました。水道に対する理解と関心を高め、水資源の大切さを呼びかけることを目的として、色鮮やかな装飾がついた10台の車両が町内を巡回しました。



お水を大切に
使おうりん♪

6月14~16日 西原中学校 読み上げ追悼で平和を願う!

6月14日から3日間にわたり、西原中学校の全校生徒にて戦没者の名前読み上げ追悼式が行われました。

「平和の礎」に刻まれる西原町出身者(前西原村) 6,290人、一人ひとりの名前を読み上げることで追悼しました。

生徒1人につき、10人ほどの名前の読み上げ、追悼の様子は各クラスに設置されている電子黒板とオンラインで限定配信されました。

3年2組の翁長優百さんは「読み上げる人の中に亡くなった時の年齢や場所がわからない人がいて、戦争の悲惨さを実感しました。亡くなった人達のためにも、平和で幸せな暮らしを続けることで恩返ししたいです」と平和を願う思いを話しました。

この追悼式は「沖縄『平和の礎』名前を読み上げる実行委員会」が主催する平和の礎刻銘者24万人余りの名前を読み上げる活動の一環で行われました。

6月16日水 坂田幼稚園 平和について勉強

坂田幼稚園の園児達が西原町役場内町民広場にて展示されている、西原町平和資料展の見学会を行いました。また、平和への願いを込めて、千羽鶴の寄贈と献花が行われ、園児達は、真剣な表情で、写真を見ていました。

西原町平和資料展では、沖縄県内41市町村の「非核・反戦」の宣言についての写真や宣言文が展示されました。



4・5月 ピカピカの1年生 お守り贈呈

西原町内の4児童館で活動するファミリークラブ会員のお母さんたちが、町立4小学校の新一年生の児童のために手作りのお守りをプレゼントしました。お守りは子どもたちの健全育成と交通安全を祈願したもので、子どもたちが「無事におうちへ帰ってくる」ことを願って、カエルのイラストがデザインされています。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため贈呈式は行わず、各校長先生に渡されました。

ファミリークラブは「町の子はみんなわが子」を合言葉に、児童館を拠点として、子どもたちの健全育成を目指して活動しています。

5月18日水 西原中学校 地域から西原町を学ぶ

西原中学校の1学年の総合学習の授業にて「地域から西原町を学ぶ」をテーマに、農業・工業・商業・平和・歴史・文教の町の6つの分野について講演が行われました。1組~6組の各クラスにそれぞれの分野に関わりの深い地域の方が講師となり、生徒へ講話を行いました。

商業についての講話を行った(有)池田食品の瑞慶寛宏至さんは「豆腐屋のネガティブなイメージを変えたかった。試行錯誤し、移動販売やSNSを使った販売を行うことでイメージアップすることにつながっている。豆腐で人生を豊かにしたいため、商品の表記を『豆腐』にしている。みんなも目標に向かって諦めずに頑張り続けてほしい」と話しました。

各クラスで行われた講演は、後日、生徒が新聞やパワーポイントを作成し、他クラスの生徒へ発表することで、講演内容を共有しました。

	講師	分野	職業
1組	眞榮城 宏美 さん	工業	沖縄森永乳業株
2組	瑞慶寛 宏至 さん	商業	(有)池田食品
3組	玉那覇 敦也 さん	文教の町	西原町役場
4組	山田 浩久 さん	歴史	西原町役場
5組	与那覇 道 さん	平和	西原町役場
6組	比嘉 博仁 さん	農業	さわふじガーデンビレッジ



眞榮城宏美さん(沖縄森永乳業株)



比嘉博仁さん(さわふじガーデンビレッジ)

※広報誌に掲載する写真については、撮影時のみマスクを外しております。